報道関係者各位

2026年11月9日
公益財団法人ロナルド・マクドナルド・ハウス・ジャパン

小児医療に不可欠な「付き添い家族支援」を担って25年。のべ1万8千家族を支えた日本第一号ハウス
「ロナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」リニューアルオープン。25周年式典でお披露目。
～大規模改修によって新たに年間約100家族の受け入れが可能に・「第二のわが家」が叶える「家族いっしょ」が、治療の支えに～

公益財団法人ロナルド・マクドナルド・ハウス・ジャパン(以下、当財団)は、日本第一号ハウス「ロナルド・マクドナルド・ハウス せたがや(以下、せたがやハウス)」の開設25周年を機に、同施設の大規模改修を実施いたしました。

「せたがやハウス」は、自宅から遠く離れた病院で子どもの治療に付き添うご家族のための滞在施設です。日本第一号ハウスとして2001年12月にオープンしました。隣接する国立成育医療研究センターは、小児と女性を専門とする国内唯一の国立高度専門医療研究センターです。小児がんや、臓器移植が必要な疾患など、地域の医療機関では治療が難しい高度で専門的な医療を必要とする子どもとそのご家族が、全国から入院・通院しています。「せたがやハウス」は、こうしたご家族を支え続け、利用家族数は25年間でのべ1万8千家族を超えました。

今回の改修で部屋数を約1割増やしたことで（23室から26室）、年間約100家族多く受け入れることが可能になりました。また、利用ご家族が少しでも良いコンディションで病気と向き合えるようサポートを強化すべく、館内設備も一新。ユニバーサルルームの設置や、ニーズが高い食事面の支援を強化するための専用キッチンの設置などを行いました。リニューアルオープンは2026年12月1日(火)を予定しています。



リニューアルした「ロナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」の外観

■小児医療の課題である“付き添い家族の支援”。「わが子のそばにいたい、でも、負担が大きい」

子どもが入院する際、そのご家族が病室に寝泊まりしながら看病を行う「付き添い入院」は、子どもにとって大きな支えとなる一方で、ご家族には大きな精神的・肉体的負担が発生します。また、病室に寝泊まりしない場合は近隣の宿泊施設を利用することも多く、経済的負担も生じます。これらは“小児医療の知られざる課題”となっています。ご家族が少しでも良いコンディションで子どもと向き合える環境を整えることは、子どもの笑顔や治療に向き合う力にも繋がり、国も支援に動き出すなど、子どもと家族の双方を支える環境づくりが、いま社会全体に求められています。ロナルド・マクドナルド・ハウスは、病気と向き合う子どもとそのご家族の「第二のわが家」として、こうした家族支援の一端を担ってきました。

日本第一号ハウスの「せたがやハウス」は、25年間、多くの利用ご家族を支えてきましたが、ニーズが高まるにつれ満室で利用をお断りせざるをえないことが発生するほか、設備の老朽化対策が課題となっていました。そこで、25周年を機に、こうした課題を解決するとともに、利用ご家族へのサポートを一層強化するために、大規模改修を実施いたしました。

■リニューアルの４つのポイント。募金委員会には全国から6千万円超のご支援が集まる

今回の大規模改修では、「第二のわが家」という開設以来のコンセプトや歴史を大切にしつつ、利用ご家族のニーズや時代の変化に合わせて、ハウス全体をリニューアルいたしました。増室や、より安心・安全に過ごせるような機能面の改善はもちろん、病院や単なる宿泊施設とは異なる、わが家のようにホッとくつろげる空間づくりも重視。明るく開放的で木のぬくもりを感じられる設計・内装を採用しました。

また、これらの改修を行うために、改修費用の一部については、募金委員会を立ち上げ支援を募集。全国の多くの方々からご支援をいただき、目標額(5千万円)を超える約6千万円が集まりました。

＜リニューアルのポイント＞

① 3室の増室

リニューアル以前の2024年は、1年間で約1,100家族から利用申込みがありましたが、うち約120家族は満室のためお断りせざるをえませんでした。こうした多くの利用希望に対応するために、今回のリニューアルでは、部屋数を3室増やし全26室とし、年間約100家族を新たに受け入れることができるようになりました。



② ユニバーサルルームを2室設置

ハウスを利用するご家族の中には、日常的に車椅子が必要なお子さんや、臓器移植のドナーとして手術後に車椅子を使用している親御さんも少なくありません。こうしたご家族がより安心・安全にハウスをご利用いただけるよう、新たにユニバーサルルームを２室設置(通常のベッドルームからユニバーサルルームに改修)いたしました。



③ ミールプログラム専用キッチンの新設

利用ご家族から特にニーズが高いのが、「食事面の支援」です。多くの付き添いご家族が、経済的な問題や時間的・体力的余裕の不足から、ご自身の食事を後回しにせざるをえない実態があります。そこで当財団では、ボランティアによる食事提供プログラム(ミールプログラム)をさらに強化し、現在の不定期実施から、将来的には全てのハウスで平日に毎日1食、栄養バランスのとれたお食事を提供することを目指しています。「せたがやハウス」でも2027年中にこの取り組み(平日毎日ミール)の開始を予定しており、従来の利用ご家族用のキッチンとは別に、新たにミールプログラム専用のキッチンを設置しました。



④ エントランスおよび中庭の整備(防犯性の向上など)

面会時間ぎりぎりまで付き添いをされ、夜間に病院からハウスへ戻るご家族も多くいらっしゃいます。そこで防犯性向上の観点から、ハウスまでの道がほんのり明るく照らされるようエントランスをリニューアル。照明の配置を見直すとともに、新たな照明を増設しました。

また、エントランスと中庭の植栽も、日々付き添いに追われるご家族が少しでもホッとしたり季節を感じてリフレッシュしていただけるよう、整備しました。1階のラウンジ(カフェコーナー)では、中庭を眺めてくつろぐことができます。



■25周年式典および支援者の皆様に向けた内覧会を開催

リニューアルオープンに先立ち、11月6日（金）に、25周年式典および支援者の皆様へのハウス内覧会を実施しました。式典では当財団理事長の岩中 督より、「せたがやハウス」のリニューアルの経緯を説明したほか、国立成育医療研究センター病院長であり募金委員会の代表でもある 笠原 群生氏より、病院と共に歩んだ「せたがやハウス」の意義や今後の展望について解説いただきました。その後、「せたがやハウス」のハウスマネージャーの大野一美より、これまでの感謝をお伝えしリニューアルの詳細について説明いたしました。また、世田谷区副区長の中村 哲也氏ほかご来賓の皆様からもご祝辞をいただきました。



岩中 督「『せたがやハウス』は全国各地や海外からもご家族を受け入れている。約1年をかけて老朽化対策と増室を目的とした大規模改修工事を実施し、より快適にご利用いただける環境を整えることができた」



笠原 群生氏「『せたがやハウス』は、病気に向き合う子どもたちとその家族の苦しみ、悲しみ、喜びに寄り添い、“第二のわが家”として歩んできた。お子さんやご家族にとって、なくてはならない存在」



来賓挨拶：世田谷区副区長　中村　哲也氏
「子どもたちが家族と離れ離れにならないよう、寄り添える場を提供するハウスは、かけがえのない存在。希望と安心を届ける存在としてのご発展を祈念する」



大野　一美「25年にわたり歩みを共にしていただいたボランティア、企業、団体、地域、病院関係者の皆様に深く感謝申し上げます。これまでの歴史やご家族のお声も活かしながら、改修工事を進めてまいりました」

■「母と一緒にご飯を食べて、一緒のベッドで寝る」。ハウスで過ごした時間が、病気を乗り越える力に

式典内では、利用経験者を代表して、「せたがやハウス」がオープンした2001年に国立成育医療研究センターに小児がんで入院し、お母様と一緒に「せたがやハウス」を利用された吉野やよいさんが当時の経験を語りました。吉野さんは「母がハウスを利用すると、（入院中の成育医療研究センターの）面会時間の最初から最後まで一緒にいられた。ステージ4の状態で、もう実家の沖縄に帰ることができないかもしれないと思っているなかで、外泊許可が出て私もハウスに泊まれることになった。ハウスでかけてもらった『おかえりなさい』という声が嬉しかった。ハウスで母と一緒にご飯を食べて、一緒のベッドで寝て、そんな時間を過ごせたことが、病気を乗り越える力になった」と、病気と向き合う子どもにとっての「せたがやハウス」の存在の大きさを語ってくださいました。また、「ハウスに滞在した時に、こんなに沢山の人が自分たちを応援してくれていると実感し、諦めちゃダメだと思った」「支援してくれた方々に、いつか絶対ありがとうと言いたかった」と、支援から感じた心強さについても言及。会場全体が、温かな拍手と感動に包まれました。



式典内で登壇された吉野さん。現在は二児の母に



吉野さんの25年前のお写真。お母様と吉野さん

そのほか、「せたがやハウス」を25年間支えてきたボランティアの方々の表彰や、記念ムービーの上映、ハウスの看板の除幕式や、エントランスの植樹セレモニーを行いました。



ボランティア表彰



看板の除幕式



植樹セレモニー

国立成育医療研究センター病院長・「せたがやハウス25周年募金委員会」委員長
笠原 群生 先生のコメント



「せたがやハウス」に隣接する国立成育医療研究センターには、重い病気や希少な疾患など、高度な小児医療を必要とするお子さんとそのご家族が、国内はもちろん、さまざまな国と地域から来院されます。年間の新入院患者数は約15,000人(2025年度実績)で、そのうち約23%は東京都外から来院されています。

遠方からお越しになり、長期にわたる入院や治療に付き添うご家族は、大きな負担を抱えています。私たち医療従事者は、お子さんの命を守り、治療に全力を尽くしていますが、それに加えてご家族が安心して過ごせる環境を整えることも、子どもたちを支えるうえで欠かせない要素です。

「せたがやハウス」は、ご家族が心身を休め、日常に近い生活を送ることのできる、かけがえのない場所です。ご家族が良いコンディションでそばにいられることで、子どもは安心感を得られ、それが治療に臨む力へと繋がります。また、医療従事者にとっても、ご家族と緊密に連絡を取り合えることは大きな支えになります。25年にわたり病院とともに歩んできた「せたがやハウス」は、医療と家族をつなぐ大切な存在です。

今回のリニューアルにあたり、募金委員会では、5,000万円を目標に寄付を募り、全国の皆さまから目標を上回る6,000万円ものご支援をお寄せいただきました。病院長、そして募金委員会委員長として、この温かいご支援に深く感謝申し上げます。
今回のリニューアルによって受け入れられるご家族が増え、食事や滞在環境が充実することで、一人でも多くの小児患者さんと支えるご家族の方々の生活の大いなる助けとなることを期待しています。
これからも「せたがやハウス」と当センターはチームとして連携し、子どもとご家族を支え続けてまいります。

公益財団法人ロナルド・マクドナルド・ハウス・ジャパン 理事長 岩中督のコメント



日本第一号のハウスとして、「せたがやハウス」が誕生してから25年。長年にわたりハウスを支えてくださった皆さま、そして今回のリニューアルに際し、募金委員会を通じて温かいご支援をお寄せくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまの温かい想いが繋がり、「せたがやハウス」ではこれまで、のべ1万8千家族を超える多くのご家族を支えることができました。かつてハウスを利用されたご家族の中には、現在はボランティアや支援者としてハウスを支えてくださっている方々も多くいらっしゃいます。

小児医療においては、病気と向き合う子どもだけでなく、その子どもを支える家族も含めてケアし、家族一緒に積極的に治療に向き合える環境を整える「ファミリー・センタード・ケア（FCC）」の考え方が重要です。家族がそばにいる安心感は、子どもが治療に向き合う力になります。

一方で、高度な小児医療を求めて遠方の病院に通うご家族や、長期にわたり入院に付き添うご家族には、精神的・肉体的・経済的な負担が伴います。小児医療の集約化や物価高騰などを背景に、家族を支える環境づくりは、今後ますます重要になると考えています。

今回のリニューアルは、こうしたFCCの実現に向けて、家族に必要な支援を具体的な形にしたものです。受け入れられるご家族数を増やすことに加え、ユニバーサルルームの設置や食事支援の設備拡充など、より安心・安全な「第二のわが家」として生まれ変わりました。

「せたがやハウス」がこれからも、病気と向き合う子どもとそのご家族に寄り添い、家族を支える場所であり続けられるよう、皆さまとともに歩んでまいりたいと思います。

ご家族をサポートするためには、今後も皆さまのご支援が必要です。

ロナルド・マクドナルド・ハウスの運営は100%ご寄付・募金と様々なご支援で成り立っております。ご寄付や必要物品のご提供といった皆さまからのご支援を、今後も継続的に受け付けてまいります。詳細は、下記の公式ホームページをご覧ください。温かいご支援をよろしくお願いいたします。
ご寄付・募金など、ご支援についての詳細はこちら(公式HP)：https://www.dmhcj.or.jp/support/

＜参考情報＞「ロナルド・マクドナルド・ハウス」について（公式HP：https://www.dmhcj.or.jp/）

ロナルド・マクドナルド・ハウスは、自宅から遠く離れた医療機関で治療を受ける小児患者家族の精神的・肉体的・経済的負担をサポートすることを目的に、高度な小児医療を提供する病院に隣接して設置されている滞在施設です。国立成育医療研究センターに隣接している日本第一号ハウス「ロナルド・マクドナルド・ハウス せたがや(せたがやハウス)」をはじめ、国内12カ所・全世界には約390カ所設置されています。日本国内での累計利用ご家族数は、2026年3月に、のべ10万家族を突破しました。

ハウスではプライバシーが確保された個室のベッドルームで心身を休められるほか、共用のキッチン・ダイニングでは自炊が可能で、同じ立場のご家族同士で交流をすることも可能です。また、利用ご家族の経済的負担に対する支援をさらに強化すべく、2026年4月1日より利用料を従来の1人1日1,000円から無償化いたしました。



ハウスを利用するご家族

【お問合せ先】
公益財団法人ロナルド・マクドナルド・ハウス・ジャパン　PR・マーケティングチーム 中園・向井
Tel：03-6911-6068　E-mail：event@ronaldmcdonaldhouse.or.jp